

# 岡山プライマリ・ケア学会会報

第十号 平成二十六年六月

## ◆新会長のご挨拶

地域包括ケアシステムの実現を目指して

―協力と連携の和をもとに―

会長 福嶋 啓祐



私は、この度二十年の伝統を誇る岡山プライマリ・ケア学会の会長を拝命致しました。

岡山プライマリ・ケア学会は、設立時より多種連携によるプライマリ・ヘルス・ケアの研究とその実践に努めてまいりました。

医療・保健・福祉・介護の専門職が共に協力して学会の運営にあたり、岡山の地域に貢献して

来た歴史があります。

主に各委員会活動を通じて、少子高齢社会に対応する方策を検討してまいりました。

まさに国がかかげる地域包括ケアシステムの先駆けを果たしてきたと思います。

近年は、認知症対策、連携シート「むすびの和」の活動が広がっています。

「むすびの和」は、岡山県がすすめる医療ネットワーク「晴れやかネット」の拡張機能として、在宅医療・介護連携を図る情報共有ツール「ケアキャビネット」のモデル事業にも参画しています。現在井笠地域で展開しているモデル事業を本年度は、岡山地域他へ拡張する予定です。会員皆様のご協力をお願いします。

これからも岡山県医師会を始めとする多くの団体のご支援ご協力を賜りつつ、ICFの理念を基本に、地域包括ケアシステムの実現を目指して活動してまいりましょう。どうか宜しくお願い申し上げます。

地域包括ケアシステム Ver.3.2

「植木鉢」図（二〇一三）



（田中滋座長の図をもとに地域包括ケア研究会事務局が作成）

## ◆新副会長(ご挨拶)



副会長 山本 茂樹

このたびの岡山プライマリ・ケア学会の役員改選に伴って、副会長に指名されました岡山県社会福祉協議会地域福祉部長の山本茂樹です。今後ともよろしく申し上げます。

さて、近年医療や福祉の状況は平成二十六年  
度診療報酬改定における地域包括診療料・地域  
包括診療加算の創設や生活困窮者自立支援法  
の施行に向けた動きなど激しい制度改正のう  
ねりの中におかれているかと思えます。これら  
の環境変化に対応していくには、社会全体で医  
療や福祉の本来のあり方を考え・実践していく  
ことが必要かと思えます。それを実現していく  
場面として、まさに岡山プライマリ・ケア学会  
が中心的役割を果たせるのではないかと考え  
ます。この可能性を広げていくためにも、一人  
でも多くの医療・福祉関係者はもとより、当事  
者や家族、地域住民をも巻き込んだ組織に発展  
させていくことが望ましいのではないでしょ  
うか。

また、地域包括ケアの推進が進められる中で、

他職種連携の必要性が強く求められておりな  
がら、連携ツールとなるものは明確にされてお  
りません。このことについて、岡山プライマリ・  
ケア学会では3年前より連携シート「むすびの  
和」を提案し、地域における専門職や利用者・  
家族の連携を視野に入れた仕組みづくりを行  
ってきています。このことは今後も力を入れて  
普及啓発に努めて生きたいと考えており、皆様  
のご協力をお願いしたいと思っております。

## ◆副会長(ご挨拶)



副会長 佐藤 涼介

今期も引き続き、副会長役を務めさせて頂く  
ことになりました。宮原会長の後を受けられた  
福嶋会長をしっかりとサポートし、岡山プライマ  
リ・ケア学会の使命を果たしたいと考えていま  
す。

現在の岡山プライマリ・ケア学会に求められ  
ていることは、県内の医療・介護・福祉関係者  
の連携を深め、これからさらに増え続けていく  
超高齢者の豊かな終末期をサポートし、満足度

の高い看取りに貢献できることが重要です。在  
宅のみならず施設の充実を叶える必要があり  
ます。これから End of life を充実させるため  
には、高齢者自身とその家族が日頃から自分の  
終末期をイメージし、どこで、どのような形で  
人生を全うしたいかということエンディング  
ノートにつけ、最後まで生に固執するのでは  
なく、しっかりと死とも向き合って納得のいく人  
生を生きることが自然に話し合われるような  
社会をめざすことが大切です。そのためには連  
携シート「むすびの和」も大きな役割を果たす  
でしょう。また、多職種参加の実践シンポジウ  
ムや認知症についての研修会や高齢者の看取  
りと救急へのかかり方などについてしっかりと  
勉強会を行い、関係者の意識を高めたいと考  
えています。

岡山プライマリ・ケア学会が充実したものに  
なるためには、皆様のご協力、研修会への積極  
的参加などが重要です。ぜひこの地域社会のた  
めに、さらには私たち自身のために皆さま、力  
を合わせて頑張ってくださいませ。



## 第二十一回岡山フライマリ・ケア学会 総会並びに学術大会の報告

平成二十六年三月二十三日、岡山衛生会館五階中ホール並びに第一・二会議室に於いて開催され、午前十時から宮原伸二学会長の挨拶に続き、総会が行われ、すべて原案どおり承認されました。

また、午前十時三十分からは第二十一回学術



大会が石川紘岡山県医師会長の大会会長挨拶で始まり、記念講演、午後からはプラクティカル・エデュケーション「認知症の徘徊への対応」（ロールプレイ）、シンポジウム「情報共有のための新たな時代を拓く」、「むすびの和」拡張事業について、が行われました。

その後は二会場に別れて、第一会場（十二演題）、第二会場（十二演題）が発表され、多職種が混じり活発な討論が続きました。参加者は約百人でした。

### ◆記念講演

「保健、医療、福祉の連携と住民、当事者との協働 く誰もが健やかに暮らせる地域を目指して」

（公社）地域医療振興協会

ヘルスプロモーション研究センター

常勤顧問 岩永 俊博

私たちの「まち」には様々な身体状況や心の状態の人たちがそれぞれに課題や不安を抱えて生活している。人の生活の基盤は家庭であり、必要に応じて医療機関や福祉の施設や制度を

利用する。そこでは、課題や不安を解決するために、各機関や施設、専門職がネットワークを構築し、連携しながら役割を果たしている。

「健康」を疾病があってもなくても、この状態を持ってこれからどう生きることかという視点で、患者や家族がいまの自分の状況を捉え、自分たちの生活を考えることを「健康な生き方」と考えると、健康な生き方の出来る地域を作ることこそ、地域の健康づくり、健康なまちづくりと考える事ができる。例えば、年をとって体が不自由になっても安心して心地よく暮らすことのできるまちを作るためには何が必要なのかを住民や行政、専門家が一緒に考えそれぞれの役割をはたす事が必要である。



## ◆トピックス

### 第二十一回学術大会・研究発表より

「訪問看護ステーション災害対策マニュアルに取り組んで」

岡山県訪問看護ステーション連絡協議会

課題検討委員会 西川 秀香

岡山県内の訪問看護ステーションが抱えている課題を明らかにして解決の支援をする目的でアンケート調査を行った結果、マニュアル作成・人材確保・利用者確保の三項目に困っているという事が明らかになりました。その中で一番多かったマニュアル作成の「災害対策マニュアル作成」に今年度取り組みました。

まず、災害・大地震等に備え、防災に関する知識の普及と訪問看護ステーションの防災力の向上のための合同研修会を企画し、訪問看護師が災害時に日頃援助している療養者の支援を多職種と連携して行うにはどのように行動すればよいかを考える機会としました。

東北地方太平洋沖地震経験者の訪問看護師による基調講演、シンポジウムを行政から岡山県危機管理課、ケアマネジャーの立場から阪神淡路大震災の経験者であるコープこうべ居宅介護支援センター、震災支援体験者である訪問看護師等で行いました。そして、地域・地区別

に分かれ、地域の実情に応じた地震発生後の各地域の被害を想定し、地震災害時の行動の在り方をデイスカッションしました。

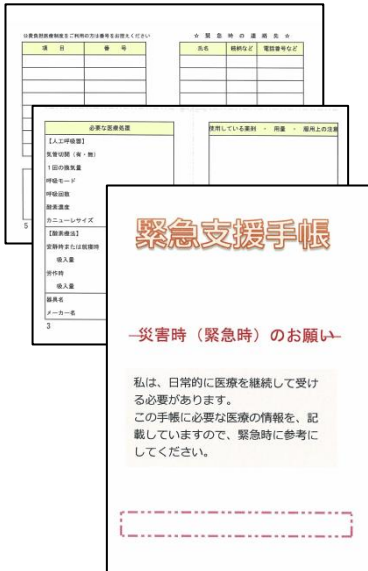
研修会終了後の調査では、「災害に備える意識づけが行えた」「災害マニュアルの見直し、作成が必要」「防災についてスタッフ教育の必要性」「ステーション間の協力体制の必要性」という学びが得られていました。

その結果、訪問看護ステーション連絡協議会で①療養者の緊急支援手帳②訪問看護ステーションでの事前準備マニュアル③訪問看護師

専門職が携帯する冊子



利用者へ配付する冊子



の災害時の緊急行動指針の三種類の標準マニュアルを作成しました。

今年度は、各ステーションの実情に沿ったマニュアル作成の支援、また、看護を必要としている要援護者に対して、多職種や行政と連携し地域・地区別の災害対策マニュアルの完成へ向けた取り組みを行っていきます。

訪問看護ステーションは、地域で暮らす人々の命を守るという役割を担っています。災害時に、関わっている利用者さんだけでなく、地域住民へも在宅看護で培った知識・技術を提供できるような仕組み作りを目指したいと考えています。

### 「看取りケアの取り組み

「ご利用者の思いを叶える」

株式会社 ドルフィン・エイド

介護付有料老人ホーム ドルフィン岩倉

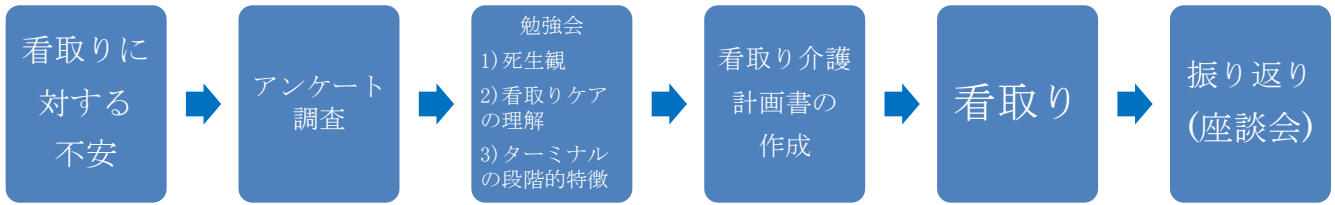
施設長 馬越 民恵

生活相談員 川田 真寿美

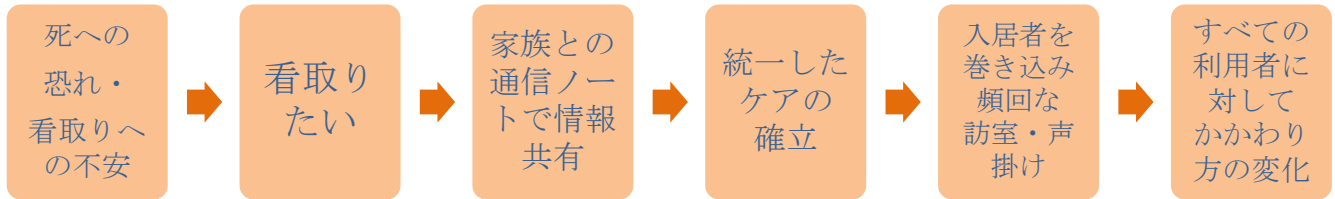
末期がんとご利用者の「施設で最期を迎えたい」という思いに伝えるため、経験の浅い職員が様々な課題に取り組み、看取りケアを実現できました。その経過について報告します。

初めは職員も「自分たちにできるだろうか」「死に向き合う不安」を口にしていました。不安の要因を把握し軽減しなければ実践はでき

職員への取り組み



職員の变化



ないと考え、アンケートを実施しました。その内容をもとに、勉強会を頻回に開催して、看取りケアに対する意識を高めました。

看取りケアを行う上で重要となるご家族との協力関係も重視し、頻回にカンファレンスを開催し、本人・家族の意向を確認することができました。施設の看取りに対する方向性も説明し家族からの協力も得られました。

看取りの実践では、家族との情報交換となる通信ノートの活用で職員間の情報共有にも役立ちました。ご家族から「毎日読んでいます」のお言葉をいただき、信頼関係が構築できました。最後は、寄り添いそばにいたることの大切さを職員が認識できました。最後まで慣れ親しんだ他入居者とかかわりも重視しました。中には毎日枕元に座り般若心経を唱える方や黙って手を握る姿が見られました。職員も精神的な安定が図れるようなかかわりを行いました。

看取りケアを実施後、振り返りのために主治医を囲んで座談会を設けました。主治医より看取りについての様々な助言をいただき、「最後はそばにいただけでいい」の言葉で職員の達成感・自信につながりました。この貴重な経験が次への取り組みにつながりました。看取りケア実践後、入所時から最期にいたる日常生活の延長線上に「死」があると実感させられ、職員とご利用者とかかわりに変化が生まれました。今後、施設での看取りニーズが高まる中で「その

方らしい最期」に応えられる施設づくりを目指します。

看取り介護実施計画書

看取り介護実施計画書

ご利用者名	種	計画作成日	平成 28 年 9 月 28 日	計画作成者
ご家族の意向	本人の気持ちも尊重したい。	看師		
支援の方針	看師とケアマネの連携を重視し、看取りを支援する。看師とケアマネの連携を重視し、看取りを支援する。	介護士 看師 相談員 ケアマネ		
目標	支援の内容	担当者		
生活全般	苦痛の緩和	介護士 看師		
食事・栄養	栄養と水分の補給	介護士 看師 相談員 ケアマネ		
排泄	尿量の把握ができる 清潔の保持	介護士 看師		
入浴・清潔	清潔を保つ	介護士		
精神的支援	精神的苦痛を緩和する	介護士 看師 相談員 ケアマネ		
医療的支援	苦痛の緩和	看師 医師 看護師 相談員 介護士		

看取り介護について説明を受け、同意致しました。

平成 年 月 日

【署名欄】

◆入会のご案内

★申込書は、HPからダウンロード出来ます。  
http://www.p-care-okayama.com/

岡山プライマリ・ケア学会 入会申込書

岡山プライマリ・ケア学会  
会費 年会費 5000円

日本プライマリ・ケア学会が平成21年に日本プライマリ・ケア学会として再発足したのを機に、日本プライマリ・ケア学会岡山支部は、岡山プライマリ・ケア学会として独立しました。基本的には、今までの20年の歴史を継ぎ、岡山の特色もいえる多職種連携のもとに築いてまいりました。

- 具体的な活動
1. 学術大会 (平成25年度・第21回)
  2. 多職種連携の推進
  3. 認知症を地域で支える方策と実践活動
  4. 在宅医療に有効な連携(ペーシェットの普及【連携シートむすびの形】)
  5. 医師研修



年会費：医師・歯科医師・薬剤師：5,000円  
その他：2,000円

【申込日】 平成 年 月 日

氏名： \_\_\_\_\_ 職種： \_\_\_\_\_

連絡先 (職場・自宅) \_\_\_\_\_

住所 (〒)： \_\_\_\_\_

所属 (連絡先が職場の場合)： \_\_\_\_\_ 電話番号： \_\_\_\_\_

申込先：岡山プライマリ・ケア学会 FAX：086-271-1572

○どなたでも入会出来ます。 ○入会は随時受け付けます。

## ◆研修会等の予定

**必 聴**

### 「プライマリ・ケア講座」

日時 平成二十六年八月十七日（日）

午後一時三十分～三時三十分

場所 岡山衛生会館 五階 中ホール

テーマ 「環境放射線とその健康影響」  
講師 広島・放射線影響研究所

理事長 大久保 利晃 先生

**プライマリ・ケア講座**  
**「環境放射線とその健康影響」**

日時：平成26年8月17日（日）13：30～15：30  
場 所：岡山衛生会館 五階 中ホール 岡山中京区京町1-1-10



講師  
公益財団法人 放射線影響研究所  
理事長 大久保 利晃 先生

**経歴**

昭和41年3月 慶應義塾大学 医学部の東  
昭和53年3月 医学博士 慶應義塾大学  
立命館大学  
放射線影響医学国際協力推進協議会 会長  
一般社団法人 労働衛生会館 会長  
公益社団法人 全国労働衛生団体連合会 副会長  
特定非営利活動法人 健康関係科学研究会 会長  
公益財団法人 広島平和文化センター 評議員

我々は自然放射線に加えて種々の人工的線源からの環境放射線の影響を受けている。その線量が健康レベルは場所によって異なり、健康影響もそれに応じて種々である。本講座では、曝露状況とそれに応じて考えられる健康影響について、できるだけ分かりやすく解説することにより、国民の事故以来、飛び交っている誤解を拒くような情報を整理して、今後の正しい対応への一助とすることを狙いとする。

※参加無料、どなたでも参加いただけます。  
※参加費は、申込みがキャンセル・無断欠席いずれかにてお断りいたします。  
※当講座は日医生活数員制度2、0単位とがキョウムコーポ4-0-9-12が認定されます。

主催 岡山プライマリ・ケア学会・岡山県医師会

お問い合わせ：岡山プライマリ・ケア学会 〒703-8278 岡山中京区京町1-1-10-602  
TEL:086-272-3225 FAX:086-271-1572 E-MAIL:gakkai@p-care-okayama.com

平成26年8月17日「プライマリ・ケア講座」参加申込書	
氏名：	所属：
住所：	電話番号：

<http://www.p-care-okayama.com/>

→HPからダウンロード出来ます。

## 「認知症研修会」

日時 平成二十六年九月六日（土）午後

場所 岡山衛生会館 五階 中ホール

◎平成二十六年十月

岡山県医師会プライマリ・ケア部会研修会

◎平成二十六年十二月

実践シンポジウム

◎平成二十七年二月

岡山県医師会プライマリ・ケア部会研修会

※詳細は追ってご案内いたします。

## ◆お願い

平成二十六年度の会費のご請求の時期が近づいて参りましたので、よろしくお願いいたします。

また、学会に対してのご意見、ご感想などもぜひお待ちしております。お聞かせ下さい。



## 編集後記

六月十二日より四年に一度のサッカー大会の最高峰、二〇一四FIFAワールドカップがブラジルで開催されています。代表選手においては、若手やベテランが協力して力を発揮したプレイを期待したいものです。

岡山プライマリ・ケア学会も福嶋新会長をはじめ、新たな執行部で学会がより充実したものとなるよう努力精進いたします。今後ともご協力をよろしくお願い申し上げます。



編集委員

佐藤 涼介  
菅崎 仁美  
丸田 康代  
奥田 圭太朗

## 編集・発行

### 岡山プライマリ・ケア学会 事務局

〒703-8522

岡山市中区古京町1-1-10

(岡山県医師会内)

TEL : 086-272-3225

FAX : 086-271-1572

E-MAIL : gakkai@p-care-okayama.com